

令和7年1月7日

永瀬清子展示室企画展「長谷川時雨と深尾須磨子——
永瀬清子が敬愛した女性文学者」を開催します

令和7年2月8日(土)に行う第26回朗読会「永瀬清子の詩の世界」の関連行事として、永瀬清子が敬愛した女性文学者・長谷川時雨と深尾須磨子との交流について紹介する企画展を開催します。

記

- 1 日 時 令和7年1月10日(金)～3月30日(日)
開室時間:9時～17時 休室日:月曜日 入場料:無料
- 2 場 所 永瀬清子展示室
(赤磐市松木621-1 赤磐市くまやまふれあいセンター2階)
- 3 内 容 永瀬清子は、長谷川時雨、深尾須磨子など、先達の女性文学者に学びながら、詩人としての歩みを進めていきました。この展示では、永瀬清子が敬愛した二人の女性文学者と、その交流について紹介します。
- 4 その他 詳細は添付のチラシをご覧ください。

(問合せ先)
教育委員会 熊山分室 白根
電話:086-995-1360(直通)



『麺麭』第2巻第8号
1933年9月

長谷川時雨が本誌で永瀬清子の詩「夏」を読む



深尾須磨子による掛け軸の前に坐る永瀬清子

長谷川時雨と深尾須磨子

永瀬清子が敬愛した女性文学者

第26回朗読会 永瀬清子の詩の世界」関連

2025(令和7)

1/10(金)

3/30(日)

永瀬清子は、長谷川時雨、深尾須磨子など、先達の女性文学者に学びながら、詩人としての歩みを進めていきました。
この展示では、永瀬清子が敬愛した二人の女性文学者と、その交流を紹介します。

第26回朗読会「永瀬清子の詩の世界」

場 所 赤磐市くまやまふれあいセンター（岡山県赤磐市松木 621-1）

日 時 令和7年2月8日(土) 午後1時30分～4時（開場：午後1時）

内 容 赤磐市民による永瀬清子の詩の朗読と合唱

「第22回永瀬清子賞」表彰式

「第22回永瀬清子賞」優秀賞受賞者による受賞作品の朗読

講演会 講師：尾形明子氏（日本近代文学研究者・文芸評論家）

最晩年の永瀬清子との交流や、戦前の永瀬清子と女性文学者との交流についてお話しくださいます。

時 間 午前9時～午後5時

休 室 日 月曜日 12月28日～1月4日

入 館 料 無料

場 所 永瀬清子展示室

（赤磐市くまやまふれあいセンター2階・岡山県赤磐市松木 621-1）

※赤磐市立中央図書館 1階の歴史コーナーで、本展示の資料の一部を複製し展示しています。

企画展・朗読会・永瀬清子についての問い合わせ先

赤磐市教育委員会熊山分室 tel 086-995-1360

URL <https://www.city.akaiwa.lg.jp/annai/kyouikuinkai/kumayama/tenjisitu/index.html>

◆交通案内



◆ 山陽自動車道
山陽・和気ICから車で約15分
JR熊山駅から徒歩約20分



くわしくはHPで

永瀬清子展示室



身一ツについたものを何でも後方の鯨に投げあたへながらすゝんでゆくやうな心持がする。

(永瀬清子「夏」『麴麴』第二巻第八号 一九三三年九月より)

長谷川時雨に見いだされる

私の今までのボヤ／＼が一時にはつきりして、今迄読んでゐたことをすぐ思ひ出せた。「麴麴」のよき作家とは、小説に仲町貞子さんのこと、詩と評論に永瀬清子さんがあつたのだつた。この「夏」といふ詩は私の心を打擲した。体をいとふことを覚てから私の心はとも弛んでしまつて、自分ながら浅間しがつてゐたので、この鞭は痛いのが快かつた。

(長谷川時雨「後ろの鯨に喰る 女流作家展望 (二)」『時事新報』一九三三年十月十日より)

諸国の天女の会



1940年8月に出版した詩集『諸国の天女』の出版記念会。
前列左から4人目佐藤惣之助、永瀬清子、北川冬彦
後列左から9人目深尾須磨子、高崎正秀

全日本女詩人協会に参加



前列左から
5人目深尾須磨子、江間章子、3人おいて館美保子
後列左から
2人目岡村須磨子、鈴木初江、1人おいて永瀬清子

長谷川時雨(一八七九年〜一九四一年)
東京府日本橋区通油町(現・大伝馬町)生まれ。本名はヤス。一九〇五年、「海潮音」が懸賞脚本に当選し坪内逍遙に師事。劇作家として活躍。一九二三年『女人芸術』創刊、関東大震災により二号で終わり、一九二八年に改めて『女人芸術』創刊、一九三二年六月に廃刊。一九三三年に『輝ク会』を設立し機関誌『輝ク』発行。六十一歳で永眠。著書に随筆集『旧聞日本橋』、『桃』、評伝『近代美人伝』など。

深尾須磨子(一八八八年〜一九七四年)
兵庫県永上郡(現・丹波市)生まれ。深尾賛之丞と結婚。一九二〇年に夫が死去し翌年刊行した遺稿詩集『天の鍵』に自身の詩と散文を収録、与謝野晶子に師事する。一九四一年、全日本女詩人協会結成、代表となる。戦後は平和運動や婦人運動に参加。八十五歳で永眠。詩集に『斑猫』、『イヴの笛』、『真紅の溜息』、翻訳に『紫の恋』、『スザンヌ物語』など。



永瀬清子色紙

長谷川時雨主宰『女人芸術』『輝ク』を発掘・研究した尾形明子氏

永瀬清子さんを岡山に訪ねたのは一九八八年の春だった。当時小学校四年生だった次男の夫を連れての訪問だったが、どしりとして暖かく気品の漂う古いお宅は永瀬さんそのままだった。

(尾形明子「5 詩人たちニ 永瀬清子」『輝ク』の時代 長谷川時雨とその周辺』ドメス出版 一九九三年九月)



岡山市の家にて
永瀬清子



尾形明子氏が訪ねた、永瀬清子の岡山市の家
撮影 高田千尋